

Wat Chang Lom
ワット・チャンローム (タイ・スコタイ県)



JSPS BANGKOK
CONTENTS

JSPS主催事業説明会の開催	01	センター活動記録	35
バンコク研究連絡センターの主催セミナー・参加イベント	04	コラム	36
JSPS同窓会情報	24	学術情報 (2020年1月-3月)	44
特集「主に科学技術協力における 日タイ関係についての所感」 総務省国際戦略政策課企画官 上野文誠	31		



センター長挨拶

新年、明けましておめでとうございます。

バンコク研究連絡センターの活動報告書「バンコクの風」の2020年度第1号（2020年1～12月分）を、1年分まとめてお届けいたします。

COVID-19の世界的な蔓延のため、2019年度第4号（2020年1～4号分）から発行が滞っております。この間、8年間センター長を務められた山下邦明先生（任期2012年7月1日～2020年6月30日）から私・大谷吉生へのセンター長の交代（任期2020年7月1日～2022年6月30日）、さらに、副センター長富山大さん（任期2018年4月1日～2020年3月31日）から池田勉さん（任期2020年4月1日～2022年3月31日）への交代がありました。また、今年度は、国際協力員の派遣が中止になったため、バンコク研究連絡センターの運営は、2021年3月まで現地スタッフのNatthida Veeramongkornkun（Bom）さん（任期2014年10月～）と3名で行うことになってしまいました。

先の見えないコロナ禍の中、本センターの活動範囲はタイ国内に限られてしまいますが、スタッフ一同、精一杯努力する所存でございます。スタッフの更新、さらに少人数のため、関係者の皆様には多々ご迷惑をお掛けすることになると思いますが、前任のスタッフを同様、どうぞよろしくご指導のほどお願いいたします。

2021年1月吉日

JSPS バンコク研究連絡センター長

大谷吉生

JSPS 主催事業説明会の開催

バンコク研究連絡センターは、タイを中心に担当国の大学等高等教育や研究機関を訪問し、JSPS 事業説明会を行っています。当センターが訪れた機関の紹介と事業説明会の様子をお伝えします。

スラタニー・ラジャパット大学で JSPS 事業説明会を実施（1 月 14 日）

2020 年 1 月 14 日（火）、タイ南部スラタニーに位置するスラタニー・ラジャパット大学（SRU）で JSPS 事業説明会を実施しました。今回の説明会は、JAAT（JSPS Alumni Association of Thailand）会長である、Prof. Dr. Porphant Uyyanont のご紹介、並びに SRU 経営協議会委員の Professor Dr. Chutima Sacchanand のご協力で実現しました。

同大学でははじめての実施です。今回は 50 名近い出席者があり、JSPS の国際事業への強い関心を感じることができました。

始めに Asst. Prof. Dr. Wattana Rattanapro, Acting President より歓迎の挨拶がありました。挨拶の中では、研究の専門性や実用性、そして教育の質が高めるため、今後も活発に国際交流を行っていききたいと仰っていました。

その後のフォトセッションを挟み、山下センター長・富山副センター長から当会の概要・同窓会組織等の説明をいたしました。また、臼井・濱端両国際協力員から各種国際事業の説明を行いました。

そして、JSPS 外国人特別研究員事業 経験者の Prof. Dr. Porphant Uyyanont に、ご自身の経験をご講演いただきました。JSPS の事業を通して、国際レベルの専門性、および研究者同士のつながりを構築してほしいと、出席者に強くアピールされました。



（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2020/01/14/8499/>）

JSPS 主催事業説明会の開催

プリンス・オブ・ソンクラーク大学で JSPS 事業説明会を実施（1 月 29 日）

2020 年 1 月 29 日（水）、タイ南部ハート・ヤイに位置するプリンス・オブ・ソンクラーク大学（PSU）で JSPS 事業説明会を実施しました。PSU は 1967 年設立のタイ南部初の国立大学で、5 つのキャンパスで構成されます。今回訪れたハート・ヤイがメインキャンパスです。

今回の説明会は、在タイ日本国大使館主催の地方留学説明会に合わせて開催されました。今回は、説明会に先立ち、在タイ日本国大使館の小林茂紀 広報文化部長および説明会参加大学とともに、PSU の Dr. Niwat Keawpradup 学長を表敬訪問する機会にも恵まれました。Dr. Niwat Keawpradup 学長は、自身も千葉大学で過ごした時期があり、日本留学には強い思い入れがあるそうです。

さらに参加者からは、タイ王国元日本留学生協会（OJSAT）への加入について呼びかけがありました。JSPS プログラム経験者であっても、条件が合えば加入が出来るため、ぜひ加入を検討して欲しいということでした。



小林茂紀 広報文化部長（左）、Dr. Niwat Keawpradup 学長（右）

その後、別会場にて、JSPS と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が合同で、事業説明会を開催しました。

冒頭で Assoc. Prof. Praneed Songwathana, RN, PhD に歓迎の挨拶をいただきました。PSU は国際共同研究の推進を掲げており、日本との協働にも関心を寄せているということでした。

フォトセッションを挟み、富山副センター長から当会の概要・同窓会組織等の説明をいたしました。また、臼井・濱端両国際協力員から各種国際事業の説明を行いました。

そして、Core-to-Core プログラム、および日本学術振興会外国人研究者再招へい事業（BRIDGE Fellowship Program）経験者の Dr. Vannarat Saechan に、ご自身の経験をご講演いただきました。ご自身はバクテリアに関する研究を進められており、サンプル収集やプレゼンテーション発表の機会を通して、東北大学や北海道大学の研究者と交流した経験があるということです。

ご講演の中では、JSPS 事業の申し込み方法に関して、実際にインターネット上の申し込みページを操作しながら、参加者に分かりやすく説明していました。

参加者からの質問には、JSPS プログラムの採択には、テーマや大学ごとの偏りはあるのかなど、具体的に強い関心がうかがえるものが多く聞かれました。

JSPS 主催事業説明会の開催

その後、JST シンガポール事務所の小林義英チーフから、JST の沿革や、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) など、JST の国際事業をご説明されました。こちら、参加者からの関心が高く、みな熱心に耳を傾けていました。

今回の参加者は 15 名ほどでしたが、日本の国際学術交流事業についての情報提供や、率直な質疑応答を行う絶好の機会となりました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/01/29/8525/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

バンコク研究連絡センターでは、対応機関であるタイ学術会議（NRCT）と学術セミナーを共催しているほか、バンコクで実施される国際的な学術シンポジウムやイベントに積極的に参加し、ASEAN地域の最先端の学術情報の収集に努めています。

Official Opening Ceremony of the study in Japan Regional Office in ASEAN, Bangkok Branch に出席（1月30日）

2020年1月30日、岡山大学のASEANバンコク事務所の開所式典が開催され、当センターから、山下センター長、富山副センター長、臼井・濱端国際協力員が出席しました。

岡山大学は、文部科学省の受託事業である「日本留学海外拠点連携推進事業（東南アジア）」の実施校に採択されています。留学意欲の旺盛な東南アジアの機運を取り込み、これまでも、岡山大学日本留学情報センター（OJEIC）をミャンマーに設置しています。

冒頭、木村邦生 国際担当副学長の挨拶があり、バンコク事務所の開所にあたり関係各所の協力をいただいたことへの感謝を述べられました。また、多くの来場者をいただき、この日を迎えられたことを誇りに思うと仰っていました。

日本大使館の久芳一等書記官の挨拶の中では、日本とASEANは長年協力関係にあり、それは経済だけでなく、学術や文化交流など多岐にわたることに言及がありました。そして国際状況は変化しており、このなかで、各国の協力関係の重要性が増していると仰っていました。

学生交流は、学生個人でなく、大学同士の交流といえるため、学生同士の交流が、最終的に国家同士の、更なる友好関係に繋がるよう期待していると述べられました。

JSPSバンコクオフィスも、岡山大学ASEANバンコク事務所より記念品を頂戴し、式典を通して、多くの方々とネットワーキング、および情報交換する機会に恵まれました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/01/30/8534/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

NRCT-JSPS-JAAT 共催セミナーを開催（2月18、19日）

2020年2月18日（火）、19日（水）、Arnoma Grand BangkokでNRCT-JSPS-JAAT共催セミナー“Sustainable Development Goals (SDGs) in Thailand and Japan”を開催しました。

このセミナーはタイ学術研究会議（NRCT）、JSPSタイ同窓会（JAAT）、そしてJSPSバンコク研究連絡センターが毎年2月に協力して開催しているものです。今年のメインテーマは「日タイにおけるSDGs（持続可能な開発目標）」です。日本からの講演者が合わせて5名登壇し、出席者は両日とも100名を超えるなど、大変盛況となりました。

冒頭ではDr. Sirirung Songsivilai, NRCT, Executive Director、増子則義 JSPS 副理事、Dr. Porphant Ouyyanont, JAAT 会長、川村博司氏在タイ日本国大使館次席公使にご挨拶をいただきました。

その後、第1部として、基調講演者の沖大幹教授（東京大学総長特別参与・東京大学未来ビジョン研究センター教授）に“SDGs for Academia in Japan”と題してSDGsの基本的な考え方から、日本におけるグッドプラクティスの事例紹介、および国際協力のあり方など、幅広くご講演いただきました。

さらに、基調講演者のAsst. Prof. Dr. Orasa Suksawang (BEBC En SAFE Life Foundation 議長) に“Overview of UN SDGs System and a Case of “Two-goal Action for All” Strategy for 17 SDGs in Thailand”と題してご講演いただきました。



沖大幹教授



Asst. Prof. Dr. Orasa Suksawan

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

続けて第2部として、“Exchange Forum on the Contributions of Japanese and Thai Projects to SDGs.” をテーマに、以下の5名の方々にご講演を頂きました。

1. 柴田晃教授（総合地球環境学研究所（RIHN））
2. 鐘ヶ江秀彦教授（立命館大学政策科学研究科）
3. Mr. Rangsan Kampiranont (Vice Governor of Nakhon Phanom)
4. Assoc. Prof. Dr. Suraphong Lorsomradee (Chiang Mai University)
5. Mr. Phusit Sanesupar (Farmer/Teacher of Mahachai Withayakom School)



柴田晃教授



鐘ヶ江秀彦教授



Mr. Rangsan Kampiranont



Assoc. Prof. Dr. Suraphong Lorsomradee



Mr. Phusit Sanesupar

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

翌2月19日には、セミナーの第3部“Education for Sustainable Development (ESD)”を開催し、以下の4名の方々に、ご講演をいただきました。

1. 佐藤真久教授（東京都市大学）
2. 生田博子准教授（九州大学）
3. Asst. Prof. Dr. Athapol Anuthavorasakul (Faculty of Education Chulalongkorn University)
4. Prof. Dr. Worsak Kanok-Nukulch (Chulalongkorn School of Integrated Innovation)



佐藤真久教授



生田博子准教授



Asst. Prof. Dr. Athapol Anuthavorasakul



Prof. Dr. Worsak Kanok-Nukulch

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

各講演の後には質問も多く挙がり、SDGs に対する関心の高まりと、日本の研究者との国際共同研究に対する期待を感じることが出来ました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/02/18/8579/>)

第 23 回在タイ大学連絡会 (JUNThai) に出席 (3 月 9 日)

2020 年 3 月 9 日 (月)、在タイ日本国大使館で第 23 回在タイ大学連絡会 (Japanese Universities' Network in Thailand: JUNThai) が開催され、当センターから山下センター長、富山副センター長、臼井国際協力員、濱端国際協力員の 4 名がオブザーバーとして出席しました。

講演会では、以下の 2 つの講演が行われました。

■「大阪大学の ASEAN 地域での取り組み概要」

久田 均

大阪大学特任教授・ASEAN 拠点長

久田先生のご講演では、大阪大学の教育・研究・大学経営などの幅広い分野における将来ビジョンを、「Openness」をキーワードにご説明いただきました。

また同大学では、指定国立大学として、留学生が在学生に占める割合が増加するよう、カリキュラム改善や英語試験の導入など、引き続き取り組みを進めていく見通しです。久田先生は、広報活動をはじめとして、ASEAN 地域における、大阪大学のプレゼンス向上に努めたいと力を込められていました。

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

■「大学職員の国際化」

臼井 真希

日本学術振興会バンコク研究連絡センター国際協力員

臼井国際協力員の講演では、三重大大学の学部構成にはじまり、同大学の研究教育の特徴を説明しました。さらに、ご自身が参加されている JSPS による国際学術交流研修について、自分の経験を交えながら詳しく説明されていました。

臼井さんから、国際学術交流研修は、自分のキャリアにプラスになり、大変感謝しているとコメントがありました。国際交流に関する幅広い見識と高度な実務能力を身につける機会として、ぜひ今後も、大学には若手職員にチャレンジの機会を与えてほしいと仰っていました。



久田均特任教授



臼井真希国際協力員

続く連絡会では、カンボジア日本人材開発センター（CJCC）の中井由子職員から、同センターの活動概要と、カンボジアでの日本留学フェアについて紹介がありました。

さらに、世界中で感染が広がっているコロナウィルスに対する各大学の対応について、出席者同士で情報交換を行いました。

会場では、こういった機会を利用して、今後も情報交換をしていきたいという声が聞かれました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/03/09/8636/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) の Web レクチャーに出席 (7 月 24 日)

2020 年 7 月 24 日 (金)、JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) の Web レクチャーが開催されました。

今回の講演会のテーマは「Managing COVID-19 Pandemic - Experience from Japan and Lesson Learned for Indonesia」で、インドネシア科学院 (LIPI) と JSPS バンコク研究連絡センターとの共催により行われました。

はじめに、今回のレクチャーのオーガナイザーである LIPI の Dr. Herry Yogaswara と JAAI 会長の Dr. Wahyu Dwianto による開会挨拶がありました。



Dr. Herry Yogaswara



Dr. Wahyu Dwianto

そして、以下の 3 名の講師が、日本におけるこれまでのコロナウィルス対策、そして、現在の状況などについて、それぞれの専門の立場から講演を行いました。講演者と講演タイトルは以下のとおりです。



堤 敦朗教授

レクチャー 1

講演タイトル: Overview of COVID-19 in Japan

講演者: 堤 敦朗

金沢大学・人間社会環境研究科・教授

レクチャー 2

講演タイトル: Japan and COVID-19

-Was it a success or a premature victory lap?-

講演者: Syarifah Aini Dalimunthe,
M.Sc Nagoya University,
Researcher at the Research Center for
Population - LIPI



Syarifah Aini Dalimunthe, M. Sc

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

レクチャー 3

講演者 : Firman Budianto, M.A.

Researcher at the Research Center for
Area Studies - LIPI

Title : Managing COVID-19 in Japan -What to Note?-

この講演会には約 140 名が参加しました。

講演後の質疑応答では、参加者から寄せられた質問
に対し 3 名の研究者が丁寧に答えておりました。



Firman Budianto, M.A.

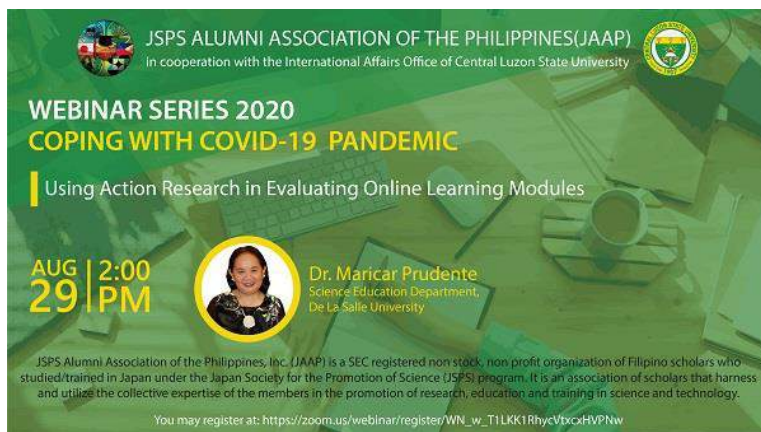


最後に、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷セン
ター長から、講演会開催の謝辞と閉会の挨拶があり、
講演会は終了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/07/24/8674/>)

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が Web レクチャーを開催 (8 月 27 日)

2020 年 8 月 29 日 (土)、JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) がウェビナーを開催しました。
このウェビナーは、WEBINAR SERIES 2020 “COPING WITH COVID-19 PANDEMIC” の第 1 回目で、
Central Luzon State University の協力を得て行いました。



JAAP の Dr. Renato G. Reyes 会長、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長の挨拶の後、
Dr. Maricar Prudente が講演を行いました。講演タイトルは以下のとおりです。

講演タイトル : Using Action Research in Evaluating Online Learning Modules

講演者 : Dr. Maricar Prudente (Science Education Department, De La Salle University)

このウェビナーには約 210 名が参加しました。

最後に、JAAP 副会長の Dr. Danilda H. Duran から閉会挨拶があり、盛会のうちにウェビナーは終
了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/08/29/8702/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS マレーシア同窓会 (JAAM) の Web シンポジウムに出席 (9 月 14 日)

2020 年 9 月 14 日 (月)、JSPS マレーシア同窓会 (JAAM) が JSPS バンコク研究連絡センターと Academy of Science (ASM) との共催で JAAM-JSPS-ASM Symposium を開催しました。

シンポジウムは、JAAM の Dr. Abe Woo Sau Pinn の挨拶で始まり、今回のテーマ “Dynamics, Diversity & Future Research –Bridging Science, Technology, Engineering and Mathematics Researcher from Japan and Malaysia–” に関して 3 名の研究者が基調講演を行いました。

講演タイトルと講演者名は以下のとおりです。



基調講演 1

講演タイトル :

Post-COVID Economic Recovery Plan via Impact-driven Research: Malaysian 10-10 Science, Technology, Innovation and Economy Framework

講演者 :

Prof. Datuk Dr. Asma Ismail
(President of ASM)



基調講演 2

講演タイトル :

The Goal of the New WPI Institute of Kyoto University, WPI-ASHBi

講演者 :

伊佐 正

(京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi)・教授)



基調講演 3

講演タイトル :

Research Activities in WPI_AIMR
–Mathematics Collaborating with Material,
Environmental and Medical Sciences

講演者 :

水藤 寛

(東北大学材料科学高等研究所 (AIMR))



この講演会には約 50 名が参加し、講演後の質疑応答では、参加者から多くの質問寄せられています。

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

最後に、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長、JAAM の Dr. Abe Woo Sau Pinn から閉会の挨拶があり、講演会は盛況のうちに終了しました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/09/14/8708/>)

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が Web レクチャーを開催 (9 月 26 日)

2020 年 9 月 26 日 (土)、JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が Central Luzon State University の協力を得てウェビナーを開催しました。

このウェビナーは、WEBINAR SERIES 2020 “COPING WITH COVID-19 PANDEMIC” の第 2 回目です。



JAAP 会長の Dr. Renato G. Reyes、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長の挨拶の後、Dr. Lerma Cajuigan-Ocampo が講演を行いました。講演タイトルは以下のとおりです。

講演タイトル : Buck to Bucks project (Bulugang Kambing tulong para sa magsasaka): a PCC-RDD initiated refocused DA-BAR research output (Creating Opportunities through Value Innovations and Development-COVID response)

講演者 : Dr. Lerma Cajuigan-Ocampo

(Senior Science Research Specialist, Department Of Agriculture-Philippine Carabao Center)

このウェビナーには約 150 名が参加しました。

最後に、JAAP 副会長の Dr. Danilda H. Duran から挨拶があり、盛会のうちにウェビナーは終了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/09/26/8718/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) の Web レクチャーに出席 (10 月 21 日)

2020 年 10 月 21 日 (水)、JSPS インドネシア同窓会 (JAAI) の Web レクチャーが開催されました。

今回の講演会のテーマは「Alternatives and Prospectives of New and Renewable Energies」で、インドネシア科学院 (LIPI) と JSPS バンコク研究連絡センターとの共催により行われました。

はじめに、今回のレクチャーのオーガナイザーである LIPI の Dr. Haznan Abimanyu と JAAI 会長の Dr. Wahyu Dwiarto による開会挨拶がありました。



そして、以下の 3 名の講師が、今回のレクチャーのテーマに関して、それぞれの専門の立場から講演を行いました。

講演者と講演タイトルは以下のとおりです。

レクチャー1

講演者：伊原 学 東京工大学・物質理工学院・応用化学系(エネルギーコース)・教授

講演タイトル：Title: Development of Distributed Smart Energy System with hydrogen energy
-Tokyo Tech Energy strategy collaborating with industry-



バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

レクチャー2

講演者：Prof. Dwi Susilaningsih, Research Center for Biotechnology, LIPI

講演タイトル：Title: A Research Development of Tropical Microalgae as Source of 4 Generation Biofuel



レクチャー3

講演者：Assoc. Prof. Suntoyo, Department of Ocean Engineering, Sepuluh Nopember Institute of Technology

講演タイトル：The Potential of Ocean Renewable Energy in Indonesia



この講演会には約 270 名が参加しました。

講演後の質疑応答では、参加者から寄せられた質問に対し 3 名の研究者が丁寧に答えておりました。

最後に、LIPI の Dr. Haznan Abimanyu と JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長から、講演会開催の謝辞と閉会の挨拶があり、講演会は盛況のうちに終了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/10/21/8727/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が Web レクチャーを開催 (9 月 26 日)

2020 年 10 月 31 日（土）、JSPS フィリピン同窓会（JAAP）が Central Luzon State University の協力を得てウェビナーを開催しました。

このウェビナーは、WEBINAR SERIES 2020 “COPING WITH COVID-19 PANDEMIC” の第3回目です。



JAAP 会長の Dr. Renato G. Reyes、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長の挨拶の後、Dr. Dr. Lauila Fermo が講演を行いました。講演タイトルは以下のとおりです。

講演タイトル: Macroeconomic Policy Response to Covid-19 in ASEAN-5: What are emerging best practices?

講演者 : Dr. Laula Fermo (Bangko Sentral ng Pilipinas)

このウェビナーには約 380 名が参加しました。

最後に、JAAP 副会長の Dr. Danilda H. Duran から閉会挨拶があり、盛会のうちにウェビナーは終了しました。

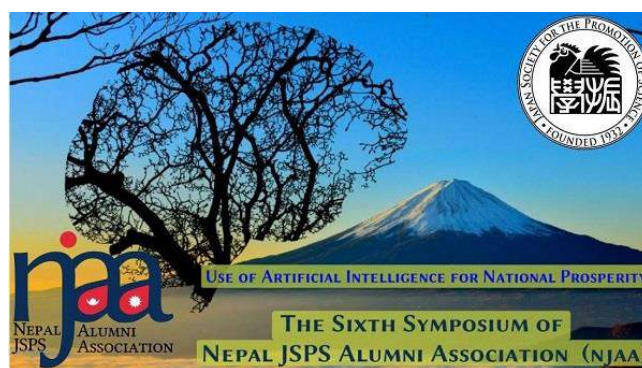
(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://isps-th.org/2020/10/31/8736/>)

JSPS ネパール同窓会 (NJAA) の Web シンポジウムに出席 (11 月 1 日)

2020 年 11 月 1 日（日）、JSPS ネパール同窓会（NJAA）が第 6 回シンポジウムをウェビナーで開催しました。

シンポジウムは、JAAM の Dr. Kundan Lal Shrestha (Secretary of NJAA) の開会の挨拶と NJAA の紹介で始まりました。

はじめに、Inaugural session が行われ、以下の5名の挨拶がありました。



バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

(Chief Guest)

・ Dr. Sunil Babu Shrestha (Vice Chancellor of Nepal Academy of Science and Technology)

(Special Guest)

・ 朝熊 由美子 (独立行政法人国際協力機構 (JICA) ネパール事務所長)

・ 吉岡 雄三 (在ネパール日本国大使館・参事官)

・ 大谷 吉生 (JSPS バンコク研究連絡センター・センター長)

・ Er. Ganesh Shah (Former Minister of Science and Technology)



Dr. Sunil Babu Shrestha



朝熊 由美子氏



Er. Ganesh Shah



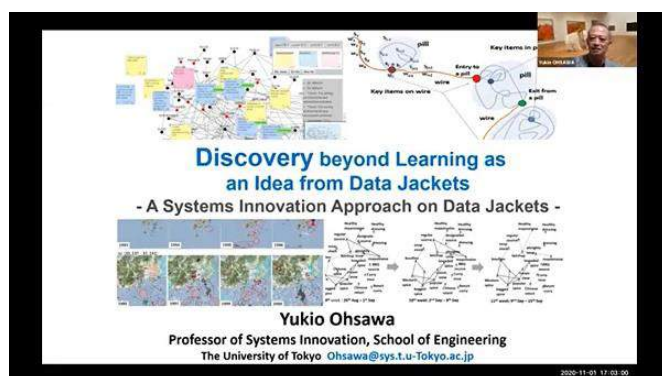
吉岡 雄三氏

次に、テクニカルセッションが行われ、今回のシンポジウムのテーマ “Use of Artificial Intelligence for National Prosperity” に関連し、東京大学の大澤幸生教授が基調講演、Prof. Dr. Shashidhar Ram Joshi が特別講演を行いました。

[基調講演]

講演者：大澤幸生 (東京大学・大学院工学系研究科システム創成学専攻・教授)

講演タイトル：Discovery beyond Learning as an Idea from Data Jackets



大澤幸生教授

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

[特別講演]

講演者 : Prof. Dr. Shashidhar Ram Joshi (Dean and Professor of the Institute of Engineering, Tribhuvan University, Nepal)

講演タイトル : Application of artificial intelligence in the development of Nepal with Japanese collaboration



Prof. Dr. Shashidhar Ram Joshi

続いて、Dr. Rosha Pokharel 氏 (Lead Data Scientist at IBM-AI Applications, USA) から挨拶があった後、大谷センター長から JSPS の組織概要、海外研究連絡センターの役割や同窓会、JSPS の各種国際交流事業について説明が行われました。



Dr. Rosha Pokharel



大谷センター長

最後に、Dr. Rijan Bhakta Kayastha (President of NJAA) 閉会の挨拶をしました。シンポジウムには約 70 名の参加があり、盛会のうちに終了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/11/01/8739/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) の National Research Forum と 2020 Outstanding Filipino JSPS Fellows 表彰式、同窓会総会をウェビナーで行いました。(11月27日)

2020年11月27日(金)、JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が National Research Forum と 2020 Outstanding Filipino JSPS Fellows の表彰、同窓会総会をウェビナーで行いました。

はじめに、JAAP 会長の Dr. Renato G. Reyes (Vice President for Academic Affairs, Central Luzon State University) が開会の挨拶を行い、続いて、以下の3名の挨拶がありました。

- ・ Opening Remarks: 大谷 吉生 (JSPS バンコク研究連絡センター長)
- ・ Inspirational Message: Ms. Junko Sato, Japan Information and Culture Center (JICC)
- ・ Keynote Speech: Dr. Fortunato Dela Peña, Secretary, DOST



Dr. Renato G. Reyes



大谷センター長



Ms. Junko Sato



Dr. Fortunato Dela Peña

続いて、医学、化学そして農学の分野で 2020 Outstanding Filipino JSPS Fellow に選ばれた以下の3名の研究者の表彰が行われました。

[2020 Outstanding Filipino JSPS Fellows]

1. Medicine

Dr. Jaime C. Montoya, MD, MSc, PhD, University of Philippines College of Medicine

2. Chemistry/Chemical Science

Dr. Lucille V. Abad, Department of Science and Technology, Philippine Nuclear Research Institute

3. Agriculture

Dr. Roel R. Suralta, Career Scientist II, PhilRice

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

次に、National Research Forumが開催されました。このフォーラムでは Outstanding Filipino JSPS Fellow の表彰を受けた3名の研究者が講演を行いました。

First presentation:

Dr. Jaime C. Montoya, MD, MSc, PhD, University of Philippines College of Medicine
 “Molecular Epidemiology of Mycobacterium tuberculosis in different Settings and Selected High Risk Populations in the Philippines”



Dr. Jaime C. Montoya



Second presentation:

Dr. Lucille V. Abad, Department of Science and Technology, Philippine Nuclear Research Institute
 “Harnessing the Benefits of Ionizing Radiation”



Dr. Lucille V. Abad



Third presentation:

Dr. Roel R. Suralta, Career Scientist II, PhilRice
 “Rooting for Rice to Adapt to Climate Change”



Dr. Renato G. Reyes



バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

講演終了後には、たくさんの質問が寄せられ、講演者は一つ一つの質問に対し丁寧に答えていました。

National Research Forum の終了後には、JSPS バンコク研究連絡センターから JSPS の組織概要、海外研究連絡センターの役割や同窓会、JSPS の各種国際交流事業についての説明を行いました。

最後に、JAAP 副会長の Dr. Danilda Hufana-Duran から閉会の挨拶があり、盛況のうちにフォーラムは終了しました。



Dr. Danilda Hufana-Duran

[JAAP 総会]

National Research Forum の終了後には、JAAP 総会が開催されました。23 名の同窓会員が参加し、この総会で時期の会長に Dr. Danilda Hufana-Duran が選ばれました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/11/27/8756/>)

バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

第 25 回在タイ大学連絡会 (JUNThai) に出席 (12 月 14)

2020 年 12 月 14 日 (月)、第 25 回在タイ大学連絡会 (JUNThai) が開催されました。

通常は 3 か月に一度定例会が行われていますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、本年度はこれまで連絡会の開催がありませんでした。しかし、タイ王国内においては新型コロナウイルス感染症の拡大が比較的落ち着いていることから、在タイ王国日本大使館での対面での会議開催となり、参加が可能であった 12 機関が出席し、授業の実施状況や学生の海外派遣、留学生の受け入れ状況など、各大学等におけるコロナ下での活動状況についての報告があり、情報交換が行われました。次回の連絡会は 3 月に開催される予定です。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/12/14/8850/>)

JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が Web レクチャーを開催 (12 月 19 日)

2020 年 12 月 19 日 (土)、JSPS フィリピン同窓会 (JAAP) が Web Lecture を開催しました。

この Web Lecture は、WEBINAR SERIES 2020 “COPING WITH COVID-19 PANDEMIC” の第 4 回目で、今回もセントラル・ルザン州立大学 (Central Luzon State University) 国際室の協力を得て行いました。



バンコク研究連絡センター主催セミナー・参加イベント

はじめに、JAAP の Dr. Danilda Hufana-Duran 会長の開会挨拶があり、続いて、セントラル・ルザン州立大学 Dr. Edgar A. Orden 学長、JSPS バンコク研究連絡センターの大谷センター長の挨拶があった後、Dr. Susan Gallardo (Society of Fellows De La Salle University) が “Infectious Waste Management: How to manage wastes during COVID-19 Pandemic.” の講演を行いました。

この Web Lecture への参加者は約 60 名でした。講演終了後は多くの質問が寄せられ、講演者は丁寧に質問に答えていました。特に、モデレーターの Dr. Deocarlis は、この分野で JAAP がリードすべき、そして、感染性廃棄物の処理には大きなビジネスチャンスがあると熱く語っていました。

最後に、JAAP 副会長の Dr. Rowena Eguia から挨拶があり、盛会のうちに Web Lecture は終了しました。

(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/12/19/8854/>)

同窓会活動報告

バンコク研究連絡センターは、日本学術振興会の国際交流事業で訪日経験のある研究者の組織である「JSPS 同窓会」の支援も積極的に行っており、現在管轄地域内に同窓会が組織されているタイ・バングラデシュ・フィリピン・ネパール・インドネシア・マレーシア JSPS 同窓会の活動支援、また、ベトナムでの新規同窓会設立に向けても支援を行っています。

2019 年度第 5 回 JSPS タイ同窓会 (JAAT) 理事会に出席 (1 月 20 日)

2020 年 1 月 20 日 (月)、今年度第 5 回目の JSPS タイ同窓会 (JAAT) 理事会をタイ学術研究会議 (NRCT) で開催しました。

理事会では、主に以下の点について議論を行いました。

1. 前回 (2019 年 11 月 6 日開催) の JAAT 理事会の議事録の承認
2. JAAT 年次総会および JSPS-NRCT-JAAT セミナー ” Sustainable Development Goals (SDGs) in Thailand and Japan ” の詳細について
3. 外国人研究者再招へい事業 について

特に JAAT 年次総会および JSPS-NRCT-JAAT セミナーに関して、3 者合同で詳細を検討する場はこれが最後ですので、入念にチェックを行いました。出席者全員が力を合わせ、意義深いセミナーになるよう、力を合わせていくことで一致しました。

またこの日は、NRCT の Ms. Tiwa Ngaowichit が正式に NRCT 国際部長に昇進されたのを祝いし、JAAT から花束を贈呈するサプライズもありました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/01/20/8506/>)

同窓会活動報告

外国人研究者再招へい事業（BRIDGE）選考委員会を開催（2月13日）

2020年2月13日（木）、JSPS バンコク研究連絡センターで令和2年度外国人研究者再招へい事業（BRIDGE フェローシップ）の選考委員会を開催しました。

同事業は、本会の外国人特別研究員事業等に採用されて来日し、日本での研究活動を終了した外国人研究者が対象です。該当の研究者に対して、再度来日し、日本人研究者との研究協力関係を形成・維持・強化する機会を提供します。（※同事業は JSPS 同窓会の正規会員が対象です。）

選考は、各国の JSPS 同窓会で組織された選考委員会が行い、JSPS 本部に推薦を行う形をとっています。

今年は8名から申請書の提出があり、選考委員会での議論の結果、2名を JSPS 本部へ推薦することとなりました。



（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2020/02/13/8551/>）

同窓会活動報告

2019 年度第 6 回 JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会・年次総会、論博メダル授与式等を開催（2 月 18 日）

2020 年 2 月 18 日（火）・19 日（水）、Arnoma Grand Bangkok で 2019 年度第 6 回 JSPS タイ同窓会理事会・年次総会、BRIDGE フェローシップ報告会、HOPE ミーティング報告会及び論博メダル授与式を開催しました。

このイベントは例年 2 月に開催している JSPS-NRCT-JAAT 共催セミナーに日程を合わせて開催しているものです。JSPS 本部から出張中の増子副理事、小野係長、山上係員、土井国際協力員もオブザーバー参加しました。

今年度第 6 回の JAAT 理事会はセミナー 1 日目の午後に行われました。

Dr. Porphant 会長の司会進行の下、2019 年度の活動報告及び 2020 年度の活動計画等について議論を行いました。



=====

2 月 19 日（水）の午後、JAAT 年次総会、BRIDGE フェローシップ報告会、HOPE ミーティング報告会及び論博メダル授与式が開催されました。

まずは 2018 年度に外国人研究者再招へい事業 (BRIDGE) により東京大学で研究を行った Dr. Ubonrat iripatrawan (Associate Professor, Department of Food Technology, Faculty of Science Chulalongkorn University) が研究報告を行いました。

Dr. Ubonrat は 2008 年から 2010 年まで JSPS の外国人特別研究員として東京大学で研究をされていました。



Dr. Ubonrat iripatrawan



続いて 2018 年度の第 11 回 HOPE ミーティングに参加された Dr. Pongsathorn Dechatiwongse Na Ayuthaya (Assistant Professor, Walailak University) より、報告がありました。参加された第 11 回 HOPE ミーティングにはアフリカ・アジア太平洋地域の 19 の国・地域から 104 人の若手研究者の参加がありました。Dr. Pongsathorn は、ノーベル賞受賞者から研究内容のみでなく、研究者としての心構え等についても話を聞ける貴重な機会を得られたこと、また、様々なバックラウンドを持つ研究者とネットワークを作ることができたとご報告されました。

Dr. Pongsathorn Dechatiwongse Na Ayuthaya

=====

論博メダル授与式では、2018 年度に明治薬科大学で論文博士号を取得された Dr. Vanida Prasert (Sirindhorn College of Public Health) より、日本で行った研究についてご紹介頂きました。

Dr. Vanida のプレゼン終了後、JSPS 論文博士号取得希望者に対する支援事業修了者にお渡ししている記念メダルを増子理事から、JSPS 同窓会バッジを JAAT 会長の Dr. Porphant から贈呈しました。



Dr. Vanida Prasert (右)、増子副理事 (左)

=====

続いて行われた JAAT 年次総会は、年に一度、全同窓会員の参加を対象とするもので、今回は約 30 人の出席者がありました。

Dr. Kittisak から 2019 年の JAAT の活動報告と会計報告、また、2020 年の活動計画について発表がありました。



Dr. Kittisak

同窓会活動報告

最後に Dr. Porphant 会長、増子副理事及び山下センター長が閉会の挨拶を述べ、イベントは締めくくられました。



(JSPS Bangkok Office ホームページ : <http://jsps-th.org/2020/02/19/8564/>)

2020 年度第 1 回 JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会を開催（12 月 3 日）

2020 年 12 月 3 日（木）、2020 年度第 1 回目の JSPS タイ同窓会（JAAT）理事会をタイ学術研究会議（NRCT）で開催しました。



理事会では、主に以下の点について議論を行いました。

1. JAAT 年次総会および JSPS-NRCT-JAAT セミナーの詳細について
2. 2019 年の活動報告について
3. 2020 年から 2021 年にかけての活動計画について
4. その他

次回の JAAT 理事会は、2020 年 1 月下旬に開催予定です。

（JSPS Bangkok Office ホームページ：<http://jsps-th.org/2020/12/03/8844/>）

今回の特集では、本年7月まで在タイ日本国大使館に一等書記官（デジタル・ICT、科学技術・イノベーション担当／インフラプロジェクト専門官）として勤務されていた、総務省国際戦略政策課企画官の上野文誠様に、主に科学技術協力における日タイ関係についてご寄稿いただきました。

※寄稿の記事・論文、図表、写真等の著作権は執筆者に帰属しています。無断複製又は無断転載はおやめください。

2020年7月まで在タイ日本国大使館で科学技術を担当していた上野と申します。

2017年6月の着任以来、ほぼ3年の大使館勤務を踏まえ、主に科学技術協力における日タイ関係についての所感を書かせていただきます。

（なお、ここに記載した内容は組織としての見解ではなく、あくまで個人としての考えです。）

【日本とタイの関係性】

一般的に言って、日本とタイの関係性は極めて良好であるといっておよいと思います。現在はCOVID19の影響で両国の行き来は難しいですが、タイ人に最も人気のある海外旅行先は日本と言われており、年間100万人を超える方が訪日していました。この数字はASEANの中で最多です。

また、日本に対する一般的なイメージも良好であり、おそらく日本から来たといってお嫌な顔をされるケースはほとんどないと思います。逆に、タイの主な省庁・研究機関・企業には日本に留学経験を持つ人がいて、日本の関係者への窓口役を積極的に果たしてくれるケースが多くあります。

一方、日本からは5000社を超えとも言われる日系企業がタイに進出しており、届け出ベースで7万人以上の日本人がタイで暮らしています。日本人にとって、海外で一番暮らしやすい国はタイだという意見には説得力があります。

こういった良好な関係が生まれてきたのは、ひとえに先人のみなさまがタイにおいて様々な取り組みを行ってきた積み重ねの結果です。

これまでに多くの大学がタイの留学生を受け入れ、真摯に彼らの成長をサポートしてきたこと、多くの日本人がタイの政府・企業に様々な形で接触し、それぞれの持ち場で日本とタイとの関係構築に真剣に取り組んできたことなど。

そういったストックがあるからこそ、我々が今、タイで充実した活動ができていると実感した3年間でした。

これまでご尽力いただいたみなさまには感謝の言葉しかありません。

【日本とタイの相対的位置の変化及び潜在意識とのギャップ】

みなさんは日本とタイの関係について、どんなイメージをお持ちでしょうか？日本は先進国である一方、タイはまだまだ発展途上国であり、日本が援助国・タイは被援助国であるという印象をお持ちの方が多いのではないかと思います。

そのイメージは大枠で正しいのですが、ただ、現状はそこまで単純ではありません。

2020年2月、タイでは第5世代移動通信システム（いわゆる「5G」）の商用サービスが開始されました。日本では同年3月にサービスが開始されたので、タイの方が導入が早かったことになります。これまで、タイは第4世代、第3世代の導入時には、おおそ5年から10年、先進国に後れを取っていましたので、だいぶ巻き返したことになります。

また、既存のインフラが充実していなかった部分をデジタル技術で補うことで、日本より進んでいる分野もあります。モバイルバンキングなどはその一例です。スマートフォンのアプリを使うことにより、キャッシュカードなしにATMから現金を引き出せるほか、お金の振り込みを行うなどのサービスも普及しています。フードデリバリーやタクシー配車アプリなどの普及度も日本よりタイの方が高いのが現実です。

加えて、この3年で、バンコク内の都市鉄道網が急激に充実してきました。今後数年でさらなる路線の開通が予定されています。この結果、バンコクのひどい渋滞を避け、公共交通機関によって移動が可能になってきました。もともと、バンコクにはおおそ1000万人が暮らす大都市であり、中間所得者層も増えており、街としてのにぎわい、都市としての成熟度が高まって来ています。筆者も高架鉄道と地下鉄で通勤をするという、東京と同じような生活を送ってきました。

以上のように、一部の分野ではタイが日本より進んでいる、または、追いついてきているという事実もありますので、「タイより日本が進んでいる」という一方的な認識は誤りです。

また、日本にいる方に一番驚かれるのは、タイの少子高齢化の進展です。現在、タイにおける特殊合計出生率は1.5程度であり、日本と大差ありません。まだタイは人口が増加していますが、これは平均寿命が延びているからであり、人口自体は2028年にピークに達するという予測があります。このままいけば、発展途上国で最初に高齢社会になることが予測されています。

このあたりの事実も、みなさんのイメージとは大きく違うのではないのでしょうか。

【ギャップが生み出す失敗事例】

科学技術研究の分野などでは、まだまだタイが日本より進んでいる分野というのは見当たりません。ですので、タイ側からは、「日本に教えを請いたい」というスタンスでアプローチしてくることが多いと思います。

ただ、その関係性に安住していると痛い目にあうことも大いにあります。

かつて、ある大学からタイの研究機関に送られた日本の教授が、あまりにも上から目線である一方、実際の活動を積極的に行わなかったために、タイ側から上手に縁を切られた、といった話もあります。微笑みの国タイの微笑みには、いろいろな意味の微笑みがあるのです。

また、別の大きな変化として、近隣他国がタイとの協力関係の進展に積極的になってきています。

科学技術研究の協力相手としては、タイは、これまで日本（および欧米諸国）に対して大きな期待を持っており、現在もその状況は変わっていません。しかし、その他の国もタイに積極的にアプローチしてきており、日本側が残念な対応を取れば、タイの目を他国へ向けさせることにもつながります。

歴史的に、タイは大国のはざままで独立を維持してきた国です。そのあたりは非常にしたたかです。

【今後への期待】

以上のような両国間の関係の変化を踏まえ、お互いの関係を良好に保つためには、日タイの関係を上下関係だと思い込むことはやめ、お互いが対等なパートナーとして、いかに win-win の関係を築いていけるかを真剣に考えるべきです。

私見ではありますが、そのためには以下のような要素が重要ではないかと考えます。

①これまでの固定観念を捨てて、相手方の状況・ニーズを正しく理解する。

上記のようにタイは急速に変化しています。協力相手となるタイ側の状況をよく調べ、相手方の状況・ニーズを常に把握することが重要ではないでしょうか。特に日本にある各団体の本部では、昔のイメージにとらわれてしまい、なかなか相手の置かれている状況を正しく把握できていないケースもあろうかと想像しています。

②自分たちの求めるものと相手側のニーズのマッチングを図る

私が3年見てきた中で、旧来のやり方、自分たちの組織の論理に固執するばかりに大きな機会を逃したのではないか、と思うことがありました。世の中はもの凄いスピード感をもって変化していることは事実ですので、その変化に対応してマッチングを図ることも重要だと思います。

③変化をおそれず柔軟にアクティブに

上記のような情勢の変化のスピードを踏まえると、これまでうまくいっているやり方でも、徐々に現実との間にギャップが出てくる場合があります。世の中が絶え間なく変化している中で、「現状維持」は少しずつ退化していることを意味することもあるでしょう。

日本の本部の指示を待って淡々と指示通り手堅く動かれる方もいらっしゃいます。もちろん、それであれば「失敗」はないのですが、ただただ過去の貯金を食いつぶしているようで、次の世代が苦労しないのだろうか、と心配になることもありました。

④状況をよりよくしたいと思う心持ちと意志

協力の成功のカギは、つまるところ個人の心持ちと意志なのではないかと思っています。相手と良い関係を作りたいと心から思っていれば、そのために足しげく動き、必要あらば変化もいとわないでしょうし、その中でいいソリューションに出会う可能性も高まります。

くしくも COVID19 の影響で日本からの出張が難しくなる中、現地で活動できる方の重要性が高まっていると思いますので、是非そういった「思いのある方」に現場で活発に活動していただきたいと思います。

以上、私がこれまで感じたことを忌憚なく書かせていただきました。

個人的には日本にとってタイよりいい海外展開先はないと思います。ここを拠点に ASEAN、世界に羽ばたいていくという戦略は現実的です。みなさまのご活躍により、日タイ関係がさらによくなることを切に希望します。

総務省国際戦略政策課企画官 上野 文誠

センター活動記録

バンコク研究連絡センターの2020年1月から3月期のその他活動は以下のとおりです。センターにはタイ及びASEAN諸国との学術の国際交流を目的とし、日本やタイの研究者や高等教育関係者が訪れます。当センターは訪問者への現地での便宜供与や学術情報の交換・助言を行っています。詳しい活動記録は当センターウェブサイト (<http://jsps-th.org/>) に掲載しておりますのでご参照ください。

1月

- 10日 慶應義塾大学 中山理工学部管財課長の来訪
- 16日 野毛坂グローバル 奥井代表等の来訪
- 21日 九州大学附属図書館付設教材開発センター 吉嶺学術研究員の来訪

2月

- 6日 東京都立産業技術研究センター 奥村理事長ほかの来訪
- 12日 会津大学 光永准教授の来訪
- 27日 関西大学 西澤教授の来訪
大阪大学微生物病研究所 照内係長ほかの来訪

3月

- 9日 山口大学学生支援部国際交流課 斉藤主任・上田職員の来訪

11月

- 16日 文部科学省日本留学海外拠点連携推進事業 ASEAN 拠点バンコク事務所 仁井留学コーディネーターほかの来訪

12月

- 1日 National Research Council of Thailand (NRCT) 国際部長 Ms. Tiwa Ngaowichit ほかの来訪

国際協力員 2 名によるコラム「国際協力員の東南アジア見て歩き」です。初めてのバンコクで生活から、タイをはじめ周辺の東南アジア諸国の旅行記をお届けします。

国際協力員の東南アジア見て歩き

①レトロバンコク紹介（臼井国際協力員）

バンコクの風に掲載するコラムもとうとう最後となりました。日本にいたころから昭和な喫茶店巡りが好きだった私は、バンコク滞在中も気が付けば時代を感じるレトロな場所を探していました。今回はこの 1 年間に会ったレトロスポットの中から特に気に入っている、是非ともいろんな方にお勧めしたい情報を厳選してご紹介したいと思います。

○スカラシアター

バンコク都心のサイアム地区にあるスカラシアターはシネコン全盛の今どき珍しい、スタンドアローン系の映画館です。おそらく 50 年前の開業当初のままであろう建物は、内装も非常に凝っていて豪華。チケット売り場では紙の座席表から好きな席を選ぶことができます。窓口の方が手書きで座席を書いてくれたチケットを手に入口に向かえば、黄色いジャケットに蝶ネクタイの年配紳士がチケットを確認し、座席まで案内してくれます。



○Tampa Coffee Shop

スワンナブーム空港とバンコク市内を結ぶエアポートレールリンクとバンコク市内の大動脈・BTS の 2 つの駅を有するバヤタイ地区に立つ Florida Hotel の 1 階にあるこちらのお店は、1968 年開業の老舗洋食レストランになります。レストランの内装は新しいもののオリジナルのロゴがあしらわれたカップがおしゃれです。お店の名物であるバーベキュースペアリブはケッチャベースの濃厚で甘いソースがたっぷりかかり、思わずご飯が欲しくなる美味しさ。どことなくオムライスやナポリタンといった和製洋食を彷彿とさせます。



○タマサート大学 タープラチャンキャンパス

1934 年開校の歴史ある名門大学の一つであるタマサート大学。創立者はタイの民主化に尽力したプリーディー・パノムヨン氏です。大学のモットー “I love Thammasat because Thammasat teaches me to love people” をどの学生も大切にしているのだとか。

王宮やワットポーが所在するバンコク旧市街のタープラチャン・キャンパスを象徴する時計台の中は大学創立の歴史が学べる博物館になっており、一般の方も見学可能です。

また、運が良ければキャンパス内でナッツを売っているお爺さんに会えるかも。この方は 1968 年から大学内で商売をされており、もはや大学名物の 1 つなのだそう。

今では偉い教授となった先生も、学生時代を知っているこのお爺さんには頭が上がらないそうです。

以上、バンコク・レトロスポットのご紹介でした！



(記事・写真 国際協力員 臼井 真希)

国際協力員の東南アジア見て歩き

②「遂にここまで…！」が詰まった、この国で (濱端国際協力員)

私はタイが好きです。

短い期間でしたが、私という外国人を温かく迎え入れてくれ、困ったときには手を差し伸べてくれたタイの人々に本当に感謝しています。

私が参加させていただいたこの研修は、「国際（学術）交流研修」と言える面あると考えています。学術分野に限らず、全般的に、自分が派遣された国（タイ）を好きになり、出来るだけタイの人々と交わるように努めてきました。タイのいいところ、悪いところも見えて、タイ語の歌も覚えて、タイ人の友達もできました。「もっとこの国にいたい」という気持ちが、帰国が近づくにつれて自然に強くなっていき、切なく思います。でも、そんな気持ちになれたのは本当に幸運で、国や人に恵まれました。

とはいうものの、私のタイ生活は、必ずしもスムーズではありませんでした。カンチャナブリに行こうとすれば、タクシーの運転手にボラれた上に間違った場所で降ろされて、その日の予定がパーツになったり…

そんな苦い経験を繰り返しながら、少しずつ、自分の行きたい場所に行けるようになり、伝えたいことを言えるようになりました。

今回は、そんな思い出の場所をご紹介します。

その1：ペッチャブーンの「ワット・ブラタート・パーソーンケーオ」

ペッチャブーンは、北部、中部、東北部の間に位置し、滝、川、湖そして山と、とても自然豊かな場所です。冷涼な気候が特徴で、今年3月には、タイなのに雹が降ったとか…

そんな場所に、大きさの異なる5体の仏像が、縦一列に鎮座しています。真っ白な仏像と、その温和な表情が特徴です。

今年度の海外出張でネパールを訪れた際、飛行機の中で、この場所の紹介文を読んだのがきっかけでした。とても印象的な写真が添えられており、私も一度は見てみたい！と強く思ったのを覚えています。

バンコクからは自家用車だけでしか行けない、と紹介しているガイドブックやウェブサイトが多く、挫折しかけました。タイ語の先生に相談して、バスで行けるということは分かったのですが、電話予約で非常に苦労しました。

もちろん予約はタイ語で。先生が横で見てくださる中、自分で電話することにしました。

「あのっ、2階の、前方の、席を予約したいんですけど…（予約ってなんていうんだっけ？）アウアウー！（焦）」。そんな感じで何とか予約しましたが、すごく冷や汗をかきました。自分の焦り具合が面白く、後で、タイ語の先生一緒に爆笑しました。



その2：スコータイの「アチャナ仏」

スコータイ朝は、タイ北部に位置し、14世紀にアユタヤーの属国になるまで、タイ文字を生み出し、非常に発展したと伝えられています。

ここで思い出深いのは、「アチャナ仏」と呼ばれる仏像です。

あれは、私が新卒で大学職員となったときのこと。仕事を始めたら、憧れだった海外旅行に行きたい！と思って手に取った本が、「地球の歩き方タイ」でした。欧米諸国は移動に時間がかかるから、行くとしたら東南アジアかな、という軽い気持ちでした。



ここで、私は「アチャナ仏」の写真に衝撃を受けます。なんなんだ、このウルトラマンみたいな仏像は！目をカッと見開いて、これは見たことない！こんなすごいものが信仰の対象になっているなら、ぜひ自分も見てみたい！

ここで初めて、タイへの興味が生まれたのでした。新卒の私は、この瞬間が、数年後のタイ駐在に繋がろうとは、思ってもいません。



さて後から、私が「目をカッと見開いて」いると思ったのは、間違いだと発覚します。目だと思ったのは、仏像の臉の上に残った煤？でした。アチャナ仏は、半目で、少し下を見ながら鎮座していらっしゃいます。新卒のころからスコータイに興味を持ち、タイという国に関心を持ち始めた私でしたが、そのきっかけは、ちょっとした見間違いだったのです。

実際のアチャナ仏は、それは素晴らしいものでした。その目の前に立って、新卒のときから様々な経緯を経て、遂に、ここまで来たんだと、妙に感慨深くなったのを覚えています。

いかがだったでしょうか？まだまだありますが、今回はこのへんで。

どの場所を訪問するにしても、苦労があり、到着した後には、その苦労を振り返って「遂にここまで…（来たんだ）！」という達成感を感じました。すべてが大切な思い出です。

1年間のタイ生活は、私の人生を非常に豊かなものにしてくれました。世界が広がり、多くのことを学ばせていただきました。関係の皆様には、心からの感謝を申し上げます。

そして、いまのコロナウィルス騒動が早期に終結し、日本とタイの関係性が、これからも一層発展していくことを祈っています。

参考：「地球の歩き方 タイ（2017～2018）」ダイヤモンド社、ダイヤモンド・ビッグ社
「amazing Thailand」<https://www.thailandtravel.or.jp/wat-phrathat-phasornkaew/>

（記事・写真 国際協力員 濱端 悠佑）

2020 年 10 月時点において、タイに入国する際には、タイ政府が指定するホテルでの 15 日間の検疫隔離 (Alternative State Quarantine: ASQ) が必要となっており、10 月 16 日にタイに入国した大谷センター長の ASQ 体験記をお届けします。

ASQ 体験記 (センター長 大谷吉生)

ASQ(Alternative State Quarantine)は、タイ政府が指定するホテルで 15 日間の検疫隔離を課す制度で、タイ人以外の外国人が対象となる。タイ入国日から解放されるまでの 15 日間の ASQ における私の生活と心の動きを綴ってみたい。実際には、搭乗に漕ぎつけるまでの手続き (予防接種、ビザ、COE (Certificate of Entry)、搭乗券、ASQ ホテルの予約確認書、10 万米ドル以上の治療補償額の医療保険証、搭乗可能健康証明書、PCR 陰性証明書の取得)の方が大変で、申請のために必要な情報の多くは在日タイ大使館の HP から得られるものの、その情報は十分ではなく、必要な書類を揃えるのに 2 か月以上の期間が必要だった。ここで学んだレッスンは、COVID-19 への対応という特殊な条件でのビザ申請であるため、タイ政府としても細かな対応まで決まっておらず、日々その対応も変更されるため、申請の過程で大使館の担当者に確認を取りながら手続きを進めることが極めて重要ということである。

Day 0 (Oct.16) 12:00 羽田空港発 JL31 便で日本を発ち、定刻の 16:25 にバンコク Suvarnabhumi 空港に到着。客席はほぼ 8 割程度埋まっていた。空港内連絡路を歩いて、エスカレーターの終点に何列にも並べられた椅子に着席し、入国に必要な書類のチェックを受け、入国審査ブースへと向かう。順番を待っていると、検査官が申告書 (Declaration form Personal Information) のチェックに現れ、「ASQ 終了後の住所はどこだ」と聞いてくる。出国前にいくつか住むアパートの候補はあったが 2 週間の ASQ 期間中に決めるつもりだったため、決まっていなと伝え、「それが記入されていないと入国は認められない」と言われる。周りにも同じような指摘を受け、どうしようと焦っている人が多い。「確定していないが候補のホテルでも良いか」と聞くと、その検査官はそれでも良いと答えてくれたので、そのアパートの名前を記入して、何とか通してもらった。後から考えると ASQ 終了後の連絡先が必要なので、JSPS バンコクオフィスの住所にしておけばよかったと後悔した。荷物を受け取り、税関を通過すると、ASQ ホテルの送迎車が待機しており、ASQ ホテルへ直行。ASQ 先のホテルは、前任の山下先生からご紹介いただいたソラリア西鉄ホテルバンコクで、2020 年 3 月にオープンしたばかり。バンコクで、日本人がオーナーの唯一の日系ホテル。ホテルに到着後、必要な書類を提出し、検温だけ受けて、部屋に入室。スーツケースを解いていると、18 時に夕食の弁当が届けられた。届けられるとチャイムがなるので、ドアを開けて机の上に置かれたお弁当を取り込み、一人で食べるのがルール。夕食は出国前に予約しておいた鳥の照り焼き (写真 1)。日本食かタイ食か微妙だが、湯葉のお吸い物、漬物が付いているのがうれしかった。ASQ 期間中の食事は、前日の 17 時までに 30 種類程度あるメニューから 3 食を指定すれば、指定した時間に配達してくれる。日系ホテルなので、日本食のメニューが多いのはありがたい。



写真 1 ASQ ホテルでの初めての食事

Day 1 これまでに経験のない禁酒・禁煙検疫隔離生活第 1 日目の開始。日本にいたときに毎朝、犬の散歩を兼ねてジョギングをしていたので、それを継続しなければ、部屋の中でベッドとソファの外側を往復するジョギングコースを確保。1 往復 50m、初日のランが 5 km (写真 2) なので、なんと 100 往復したことになる。非常に平坦で単純なコースだが、民放を含め日本のすべてのチャンネルを見ることができたため、テレビを見ながら飽きることなく走れるコースである。ちなみに写真の Garmin watch は退職祝いに家族からプレゼントされたもの。測定精度がどの程度なのか疑問だが、距離、時間、消費カロリーを数値でみられることは、運動を継続できる大きなモチベーションになる。初日の朝食は、前日注文したタイ式お粥（カオトム）である（写真 3）。カオトムにパクチーは必須。



写真 2 ASQ ホテルでのルームランニング

追加で注文したパクチーがちゃんと添えられている。ちなみにこのパクチーは、その後追加注文しなくても毎食付いてきた。湯葉の吸い物に入れてもおいしい、グリーンカレーに入れてもおいしい。写真 4 はたっぷりパクチーを載せた夕食のパッタイ。次の日の食事を何にするか、30 種類のエントリーから選ぶのが大きな楽しみになった。



写真 3 朝食のカオトム（タイ式おかゆ）



写真 4 夕食のパクチーたっぷりのパッタイ（タイ式太麺の焼きそば）

この日は、部屋に何が備えられているのか調査するとともに、持ち込んだパーティクルカウンタで部屋の PM（粒子状物質）濃度の測定を行った（写真 5）。 $0.3\mu\text{m}$ 以上の粒子が 0.1 cf （ $=2.83\text{ L}$ ）中に 88,276 個存在しており、濃度に換算すると $31.2\text{ 個}/\text{cm}^3$ であった。少し濃度が高い気もするが、通常の範囲である。2 日に 1 回の掃除の際には、この濃度が 10 倍程度に増加するが掃除終了後の濃度減衰は速やかであった。

Day 2~5 部屋から一步も外へ出られない状態で、どのように規則正しい生活を送るか、そのスケジュールの組立を行った。14 日間という期間は決して短くない。ルーティーンを決めないで、毎日やりたいときに好きなこととしていたら、極めて体たらくの 2 週間になっていたと振り返る。朝一番のジョギングは決まったが、あとできることと言えば、パソコンによるメールのやり取りと、テレビを見ることくらいである。結局、一日のスケジュールは、朝一番にジョギング、午前中はメールへの対応、そして午後はテレビを見るという極めて単純なものになってしまった。それでも一日の生活パターンができれば、残された ASQ 期



写真 5 パーティクルカウンタ（PP8306）

間への心配が払拭された。3日目の午後にタイへ来て初めての PCR 検査があり、次の日の朝に陰性であることの報告があった。

Day 6～14 1回目の PCR 検査が陰性であれば、6日目から、予約をすれば 45 分間だけ屋上へ出られるようになる。できるだけ人との接触を避けるため、屋上へ出ることを許されるのは一度に 4 名のみ。45 分間だけではあるが、外で新鮮な空気を吸える時間があることが如何に幸せなことかを痛感した。ASQ 生活の半分の期間を消化し、あと 1 週間を残す頃になってからは、隔離生活に慣れたこともあって、何も仕事をせずに好きなことをしていて、3 食好きなものを食べられるという ASQ の生活も悪くないのと思えるようになった。しかし、時間があると、25 階の部屋から窓の下に見える Asok 交差点を見下ろし、解放される日を夢見ていた（写真 6）。この時の一番大きな夢は、解放されたらまず冷たい生ビールを飲むという、単純なものであった。我慢すれば我慢するほど、解放された時の喜びは格別だろうと我慢した。12 日目の午前中に 2 回目の PCR 検査を受けた。結果はその日の午後には通知され、めでたく陰性であった。



写真 6 ホテルの窓から見下ろす Asok 交差点

Day 15 10 月 31 日の朝 6 時に ASQ を解かれた。ホテルで最後の朝食を済ませて、お世話になった営業支配人の西村さんにお別れを告げ（写真 7）、ソラリアホテル向かいにある Westin Grande Sukhumvit ホテルへ移動した。お別れにソラリアホテルから、ASQ 記念ディベアをいただいた（写真 8）。ソラリアホテル、Westin ホテルとも ASQ のホテルに指定されているが、ソラリアホテルは ASQ 宿泊客に限定しているため、ASQ 以外の宿泊客は泊まれないとのことであった。解放されたその日の夜、醸造所に併設されたビアバーンレストランへ行き、ASQ 無事終了を祝い、同時に渡タイした池田副センター長と、念願の乾杯を果たした（写真 9）。この時のビールのうまさは一生忘れられないだろう。



写真 7 Solaria ホテルとのお別れ



写真 8 Solaria ホテルからいただいた ASQ 記念ディベア



「この ASQ 体験談をお世話になったソラリア西鉄ホテルバンコク総支配人の河原様へ送付したところ、以下の返事をいただきました。ASQ ホテルとして、様々な問題、悩みがあることを全く考えていませんでした。宿泊客にとって監禁状態での 2 週間の隔離生活は厳しいものですが、受入れホテルも大変な苦勞をされています」

JSPS バンコクオフィス

センター長 大谷様

ご執筆された体験記、拝読させていただきました。

出発準備の苦勞、通常ではないタイへの入国、ホテルの部屋から一步も出られない状況での食事への期待、生活リズムを作る為の努力、窓から見える交差点にみる夢。ASQ から解放され、「一生忘れられないビール」。何度も読み返しながら、今もソラリアホテルに ASQ 宿泊しているお客様を想いました。

ソラリアホテルが ASQ に登録された 7 月 15 日以降、私はお客様が部屋の中で何を思い、何を考え、どのようなことをお手伝いすれば、喜び、安心してもらえるのか、いつも考え、悩み続けています。私が考え、悩む理由は、PCR 検査等でお部屋から出てこられる、お客様の顔を拝見するたびに感じる“同じ顔”“同じ表情”が原因です。通常、お客様は私に“感情”を伝えてくれます。お褒めの言葉、お叱りの言葉、期待の言葉、再会を約束する言葉、お客様一人一人がそれぞれの表現、言葉で、私に“感情”を伝えてくれます。しかし、ASQ ホテルとなって以降、お会いするお客様の表情からは“感情”が消え、お客様一人一人にあるはずの表現や言葉がなくなり、“同じ顔”“同じ表情”になってしまいました。

大谷先生へもお伝えしたかも知れませんが、ASQ 宿泊開始後、5 日目～10 日目に「ひと山」がくる方が多く、人によっては拘禁症状を発症し、本人の意思とは関係なく、心を乱される方もおられます。何とか落ち着いてもらい、ゆっくり話を伺うと、ほとんどの方が涙ながらに、それぞれが背負う「責任」を語られます。そうした業務を毎日送っていると、お客様の“同じ顔”“同じ表情”の意味、深刻さを肌で感じてしまい、「ASQ という制度は果たして正しいのか」と、自問自答を繰り返してしまいます。

一方で、大谷先生をはじめ、ASQ 終了後にご活躍されているお客様を見たり、聞いたりすると、「これで良かったんだ」と色んな思いが飛んでいくほど、本当に嬉しく感じます。お客様にとっては、軟禁される不幸な 15 日間だとお察しします。表現が適切ではないかも知れませんが、ソラリアで涙を流され「責任」を語り、歯を食いしばって 15 日間を終了されたお客様もたくさんおられます。

大谷先生にもお渡しした、ASQ 宿泊記念のテディベアも、最初は準備していませんでした。しかし、様々なお客様の事情を知るたびに、「何か」を残してあげたいと思いました。そんなとき、宿泊支配人の西村が滞在期間、お部屋番号、お名前をテディベアに刺繍して、お渡しすることを提案してくれました。ASQ 宿泊した、皆さんが必要とするものではないとわかっていますが、過酷な 15 日間を頑張った証として、必要とする人がいるのも事実です。

最後になりますが、大谷先生の体験記は、お客様の日常を知る、私たちにとってとても大切な資料となりました。「ASQ を返上したい」と何度も思いましたが、大谷先生が「日系のホテルなので、日本食のメニューが多くありがたい」というお言葉と評価を胸に、今日からまた頑張ります。

ソラリア西鉄ホテルバンコク

総支配人 河原 政志

■マヒドン大学 イノベーション分野でタイのトップ大学に

スペインの学術調査機関によるランキングで、マヒドン大学 (Mahidol University) が知的財産イノベーション分野でタイのトップ教育研究機関にランキングされた。

2020 年 1 月 17 日、マヒドン大学学長代理の Prof. Dr. Banchong Mahaisavariya はマヒドン大学が Scimago Institutions Rankings 2019 で世界 552 位だが、国内では 1 位となったと発表した。

Scimago Institutions Rankings は世界中の大学や研究機関の科学評価リソースであり、研究 (50%)、イノベーション (30%)、研究とイノベーションが社会に及ぼす影響 (20%) の 3 つの指標により、研究機関の知的財産イノベーションのランキングを行っている。

Prof. Dr. Banchong Mahaisavariya は、マヒドン大学は知的財産を重視しているとし、「人類の進歩に資するため、あらゆる研究領域で新たな知識を創造することはもちろんのこと、マヒドン大学は、新たな知識を商業目的のために発展させることも保証する。」と述べた。

同ランキング全体のトップになったのは中国政府主導の北京にある中国科学院 (Chinese Academy of Science : CAS) であった。

マヒドン大学イノベーションマネジメント研究所 (Institute for Technology and Innovation Management: iNT) の所長、Prof. Dr. Phattharachai Kiratisin は、マヒドン大学は研究結果が商業化されるまで研究者を支援する、とし、「iNT は研究者の十分な研究資金の確保、特許の取得、イノベーションの市場調査を支援する」と述べた。

さらに iNT は、オランダに本部を置く革新と起業家精神の振興を目的とする国際的組織である、Accreditation Council for Entrepreneurial & Engaged Universities (ACEEU) の Innovation and Entrepreneurship Support of the Year competition で 20 か国以上の 300 を超える組織の中から、3 位に選ばれた。

(2020 年 1 月 18 日 Bangkok Post 紙)

■マヒドン王子記念賞受賞者 ウイルス研究を促す

2020 年 1 月 29 日、2019 年のマヒドン王子記念賞の受賞者である、ドイツのウイルス学者、Dr. Ralf Bartenschlager および感染症および熱帯病を専門とする英国の医師、Dr. David Mabey は、記者会見で武漢コロナウイルスの完全な理解を得るためには緊急の研究が必要であると、述べた。

Dr. Ralf Bartenschlager は、中国湖北省の武漢で出現した新しいコロナウイルスについて、さらなる研究が必要であると述べた。

このウイルスの発生源は市場で売られていた野生生物であると突き止められている。また、人から人への感染も確認されているが、更なる調査が急ぎ進められているところである。

Dr. Bartenschlager は武漢封鎖という中国の決断に賛意を示す一方、「ウイルスに関する完全な知識が無ければ、感染拡大を食い止めるための当局の機能が十分に発揮されない。現時点での優先事項は急ぎウイルスを研究することである」と語った。

一方で Prof. Mabey は、新コロナウイルスは中東呼吸器症候群 (MERS) および重症急性呼吸器症候群 (SARS) の発生を引き起こしたウイルスよりも、その影響がそれほど深刻ではないと述べた。

Prof. Mabey はコロナウイルスの感染が拡大するのを防ぐワクチンはすぐに開発されるだろうと考えている。

ハイデルベルク大学 (University of Heidelberg) の Dr. Bartenschlager とロンドン大学衛生熱帯医学大学院 (London School of Hygiene & Tropical Medicine) の Prof. Mabey は それぞれの専門分野の権威である。

Dr. Bartenschlager は、C 型・B 型肝炎ウイルスの研究およびフラビウイルス (デング熱およびジカウイルス) の比較分析を専門としている。

Prof. Mabey は伝染病の専門家であり、これまでに 200 以上の研究論文を発表している。

マヒドン王子記念賞受賞式は、2020 年 1 月 30 日、国王に代わり、マハ・チャクリー・シリントーン王女殿下 (Her Royal Highness Princess Maha Chakri Sirindhorn) によって、Chakri Maha Prasat Throne Hall で開催される予定。

マヒドン王子記念財団 (the Prince Mahidol Award Foundation) はタイ王室の後援のもと、マヒドン王子の生誕 100 周年を記念し、1992 年 1 月 1 日に設立された。

マハ・チャクリー・シリントーン王女は同財団の理事長を務めている。

(2020 年 1 月 30 日 Bangkok Post 紙)

■英国を目指すタイの学生

ブリティッシュカウンシル・タイ (British Council Thai) は、2020 年、英国で学ぶタイの学生数が 5~7%増加すると見込んでいる。

ブリティッシュカウンシル・タイの Uraiwan Samolee 国際教育部長によれば、現在英国はタイの高等教育機関に所属する学生の一番の留学先になっており、海外留学を行う学生のうち、英国留学者は 6,785 人で全体の 43%を占めており、米国 37%、オーストラリア 16%、カナダ 4%がこれに続いている。

Uraiwan 氏は以下のように述べた。

「昨年、英国で学ぶタイの学生数は 5%増加し、今年も昨年と同程度か、それよりもわずかに増加する見込みである。

主な要因は、パーツ高と修士課程プログラムの履修期間の短さであると考えられる。英国の修士課程プログラムの多くは 1 年で修了可能となっており、学生は学費を節約し、より早くキャリアを開始することができる。

英国でタイの学生が選択する上位 5 専攻はビジネスおよびマネジメント 41%、工学および技術 11.5%、社会科学 7%、法律 6.4%、創造芸術およびデザイン 5%となっている。

ここ数年では、データサイエンスや AI といった新技術分野を専攻する学生の増加も見られる。

我々はまた、英国とタイの大学間の学術・研究協力の拡大にも取り組んでいる。

この 3、4 年の間に我々は 55 件の研究・学術協力を実現させた。

ほとんどの研究協力が医用工学、生物科学および食糧・農業・エネルギー分野で実施されている。」

Andrew Glass ブリティッシュカウンシル・タイ代表は、ブリティッシュカウンシルは「文化交流」機関として、タイにおける英国の教育振興だけではなく、

タイの英語能力の向上や、文化事業および交流活動も担っている、と述べた。

「タイの英語能力向上に向けて、ブリティッシュカウンシルは、タイ高等教育科学研究イノベーション省 (Ministry of Higher Education, Science, Research and Innovation: MHESI) と、教員養成教育訓練プログラムの開発について協議している。

ブリティッシュカウンシルは、若い学習者が自然な英語を遊びながら習得できるような、新しい方法論を導入する予定である。」

(2020 年 2 月 6 日 Bangkok Post 紙)

■「大学は生涯学習に向けて準備を進めなければならない」

高等教育科学研究イノベーション省 (Minister of Higher Education, Science, Research and Innovation: MHESI) の Suwit Maesincee 大臣は、大学はタイが直面している二つの脅威、すなわち、大学入学年齢人口の減少とデジタル破壊に対応するため、生涯学習に向けた機関に転換しなければならない、と述べた。

Post Today ウェブサイト主催のセミナーで、Suwit 大臣は「高等教育の力によるタイの向上」と題して、以下のように語った。

「落ち込む出生率とデジタル破壊は雇用市場に変化をもたらすであろう。労働年齢人口は縮小し、多くの職が無くなるかロボットやスマートシステムに引き継がれる。

タイの労働年齢人口は減少し、現在ある職の多くが AI に置き換えられ、多くの人がキャリアの変更を余儀なくされるようになる。このような状況で生き残るために、労働者は 21 世紀の技能を身に付けなければならない。

労働者にとって最も必要な技能は、複雑な問題解決能力、批判的思考および創造力となるだろう。彼らはまだこの世に無い職業に就くかもしれないのである。

我々の教育制度は、単に特定の仕事に就く卒業生ではなく、生涯学習者と仕事を創造する人間を創出することができるようにならなければならない。大学は学生に思考力および、物事を評価分析できる批判的思考を身に付けさせなければならない。」

さらに大臣は、未来の大学は全ての年齢に開かれた場所であらなければならない、と付け加えた。

急速にテクノロジーが変化する世界では、誰もがそれぞれのキャリアの中で何度も新たな技能を学ぶ必要が生じるため、大学で学ぶのに年齢制限は無くなるであろう。

Suvit 大臣は、「大学は既に雇用市場に出ている 3 千 5 百万人の技能向上に着目するべきである。

政府は大企業に対し、従業員が新しい知識を得るために大学に通うのを後押しするよう、税金優遇を行っている。

中小企業の従業員に向けては、彼ら自身を大学で「再教育」するのに使用できる、技能開発クーポン (skill-development coupon) の発行を検討している。」と述べた。

さらに Suvit 大臣は大学に対し、科目を徹底的に見直し、知識を最新に保ち、政策に合致する新しい科目を開設するよう促した。

Suvit 大臣によると、政府は今後 5 年でタイの GDP を 1 兆バーツ引き上げるという野心的な経済成長目標を達成するため、いわゆる「BCG モデル」 (Bio、Circular、Green economy の略) を推進している。

「この目標達成のため、新しい知識と技術は、食品・飲料生産業 (向上)、医薬、エネルギー、生化学および観光を含む様々なセクターの製品の価値を高めるために使用されなければならない。そこで大学が果たす役割は非常に重要である。

BCG モデルの導入により、政府は今後 10 年間で 1 千万以上の雇用を創出することを目指している。」

さらに MHESI は、有給のボランティア職を無職の卒業生に提供する一方で大学生の起業能力を向上させる、「若者が国をつくる (Youth Build the Nation)」計画に 86 億バーツの資金提供を行っている。

資金の大部分は、農村部で有給ボランティアとして働く 5 万人の卒業生を募集する事業に充てられている。

(2020 年 2 月 7 日 Bangkok Post 紙)

■新卒で最も給与が高いのは IT 関係

人材管理会社の Adeco Group Thailand によれば、今年の新卒者の給与はプログラマー、ソフトウェア開発者および日本語通訳者が一番高く、初任給は 3,500 バーツから 40,000 バーツとなる。

同社は最近、2020 年の給与ガイドを発表した。このガイドには、3,000 以上の企業に実施した調査に基づく、800 以上の職種の給与統計の包括的な概要が記載されている。

調査の概要は以下のとおりである。

- ・新卒者に最高額の給与を支給しているのは IT 業界
- ・最低初任給は 12,000 バーツと、数年前の 9,000 バーツからわずかに上昇
- ・新卒者の最高初任給は 40,000 バーツ
- ・コンピューター・プログラマーとソフトウェア開発者は、企業がオンラインでの存在感確立と業務のデジタル化を目指すほど高い給与が見込まれる
- ・英語でのコミュニケーション能力もまた、高い初任給を得るのに有効
- ・新卒者の多くは初任給 18,000 から 25,000 バーツでキャリアをスタートさせると予想される
- ・一方でセールス業やエンジニア、プロジェクトコーディネーター、秘書、日本語通訳者の給与も最大約 35,000 バーツと高額

Adecco Group Thailand の Tidarat Kanchanawat 代表は、「各業界や、その中での各職種の給与レベルは、職種の需要と供給を反映しているし、雇用市場におけるニーズや、企業の給与支給能力も表している。

企業は固定費用削減のため、フリーランサーの利用を増やしたり、複数の技能を持つ従業員を探したりしている。それは、単にその従業員らが持つ技能のみを求めるのではなく、先行きの見えないビジネス界で戦うためでもある。」と述べた。

(2020 年 2 月 14 日 Bangkok Post 紙)

日本学術振興会バンコク研究連絡センター アクセス&コンタクト

アクセス

高架鉄道 (BTS) Asoke 駅、1 番出口から徒歩 5 分

地下鉄 (MRT) Sukhumvit 駅、1 番出口から徒歩 5 分

コンタクト

1016/3, 10th floor, Serm-mit Tower, 159

Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110, Thailand

Tel +66-2-661-6533 Fax +66-2-661-6535

Website: <http://jsps-th.org> Email: jspsbkk@jsps-th.org

facebook: JSPSBangkok



■ 表紙写真紹介



Wat Chang Lom

(タイ、スコータイ)

バンコクから北に約 400 キロのスコータイは、13 世紀にタイ族による最初の王朝が開かれた土地です。スコータイ歴史公園をはじめ、当時の遺跡がたくさん残っており、これらの遺跡群はユネスコの世界遺産にも登録されています。

今回の表紙はそのスコータイ遺跡の中から。

Wat Chang Lom の Chang とはタイ語で象を表しますが、仏塔の土台に 32 頭の象の像があり、仏塔を支えているように見えます。

JSPS バンコクニュースレター「バンコクの風」

監修：大谷吉生 編集担当：池田勉